

海底軍艦

フジミ 1/700スケールプラスチックキット

製作・文 政府開発援助

1. 海底軍艦について

海底軍艦は、昭和38年に公開された同タイトルの東宝映画に登場する超高性能万能艦です。海底軍艦は海中は勿論のこと地中や空中でも活動でき、外観上最大の特徴であるドリルの威力は想像を絶するものがあります。伊号403潜の後継艦という設定で、太平洋戦争の劣勢挽回の為に元海軍軍人神宮寺大佐が南の島で秘密裏に建造していたものです。海底で繁栄を続けていたムー帝国の地上侵略に立ち向かい、その傑出した戦闘力でこれを打ち破って世界に平和をもたらしました。

2. キットについて

キットは2001年に新規開発されたもので、1/700という縮尺は既存の洋上艦艇模型(ウォーターラインシリーズやシーウェイモデルズ等)を多分に意識したものとなっています(キットには洋上モデルとして仕上げる為のオプション部品も付属)。劇中登場した様々な形態を再現化すべく、翼やカッターは収納可能となっており、上部構造物も収納状態を選択できます。また、電子砲の砲身は透明・不透明を選択できます。商品ラインナップとしては4種類が存在し、うち1種はアルミ削り出しドリル部品やエッチングパーツが付属したハイグレードタイプとでも言うべきものになっています。

3. 製作と塗装について

今回の製作にはスタンダードタイプのキットを使用しています。金型成型の制約上、海底軍艦最大の特徴である艦首ドリルの形状に若干の問題があるのですが、逆にこの部分が軽量なプラスチック製であることを最大限活かしてドリルを電動回転させることにしました。駆動部分としてビットレーサー(絶版)の動力シャーシを切り詰めたものを組み込み、ドリル部分は回転軸を2mm真鍮パイプに置き換えて模型店で物色してきたラジコン用ギヤを取り付けました。なお、このギミックを組み込む都合上、艦首両側の翼の収納部分がなくなり、全ての翼の収納を省略して後ほめることができました。電源は単三乾電池を、電池ボックスを切り詰めて無理やり内蔵。上部甲板を取り外して交換できるようにしてあります。

塗装は旧日本海軍艦艇に準拠して、艦底色と軍艦色(2)の缶スプレーで塗り分けています。ドリルは秘蔵のグンゼオートカラー(絶版)のジャーマンシルバーを使用。細部は上部甲板がタン、ノズル部分は黒鉄色、カッターは金色に銀色を少々加えたものです。最後にエナメルカラーとガンダムマーカーで墨入れを行い、ドリルを除いてつや消しクリアを吹いています。



前面

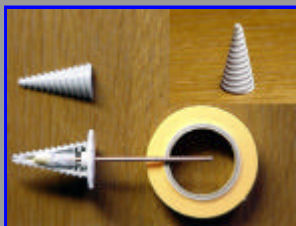


後面

4. 製作過程



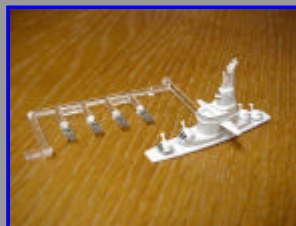
各部の翼やカッターは後
はめ式に変更し、本体側
に位置決めガイドを設置。



ドリルの形状を修正し、回
転軸の受けとなるプラパイ
プを固定。



内蔵した駆動部分と電
源。スイッチは無難なスラ
イト式のものを使用。



電子砲砲身は透明部品を
使用し、事前に筆で塗り分
けておいた。